

ノガン

劉伯文・郭玉民

訳 福井和二

ノガン (*Otis tqrda*) はアジアにおける最も大きな鳥類で、雄の成鳥は 15kg 以上に達するものがある。頭と頸部は灰色、背部は褐色、腹部は白色、脚は緑灰色、雄は喉の両側に白色の長いヒゲ状の羽毛がある。雌の体重は雄に比較して小さく 4~8kg で、ヒゲがない。雌雄の形態的違いは大きく、中国では古くから雌雄が別々な種であると誤認されていた。

中国のノガンは二つの亜種に分かれ、その 1 亜種 (*O.t.tarba*) はイリコサック自治州、吐魯番、巴里伸、南部の喀什市から阿克蘇一帯の中国内、西はヨーロッパから中央アジア地区に留鳥として分布する。他の 1 亜種 (*O.t.bybowsii*) は東方亜種ともいい、主要繁殖地は内蒙古の東北部、黒龍江省と吉林省の西部、国外ではモンゴルとロシアのシベリア南部で、冬季は長江流域およびその北部、南限越冬地は貴州省の草海である。東北地区では少数のノガンが毎年越冬しており、雄の成鳥が多数を占めている。

ノガンは典型的な草原の鳥で、水源に近い丘陵地に営巣し、巣はきわめて簡単な盤状で、わずかな草や羽が敷かれている。年 1 回繁殖、1 巢 2~4 卵であるが 3 卵であることが多い。卵は青灰色、褐色の斑点がある。抱卵は 30 日ほどで、孵化した雛は絨毛が生えており、産毛ウブゲが乾くとすぐに親鳥について歩き、採食する。幼鳥は 1 カ月後には飛べるようになる。繁殖期になると雄の頸部がふくらみ、羽毛が青みがかって、舞いを踊るようにして雌に向かってディスプレイを行ない雌を誘う。ある一部の人は、繁殖期の雄の頸部が膨れるのは、この時期毒草を食べることによって起こるのだと言われるが、実際は雌を誘う装いにすぎず、繁殖期がすぎると消えてしまう。国内の資料によっては、“雌雄交代で抱卵すると”記されているが、われわれの観察によると、ノガンの雄は“亭主関白”で、営巣も抱卵も手伝わす、交尾が終わると、20 羽ほどの小群を作り、繁殖地の周辺で、ただ食べて遊び呆うけるのみで、もはや妻子をかえりみることはない。雌は単独で営巣し、抱卵、育雛をする。これにより、多くの人はノガンには始めから“夫”がいらないと思い、これが“ノガンの雌はさまざまな鳥を夫にもつ”(不貞の婦)という古くからの伝説の由来になったのではないか。

ノガンは飛翔力に比べて脚力が強くよく走る。しかし、アフリカのダチョウやオーストラリアのエミューのように、飛翔力が退化しているのではない。ノガンは“鳴かない”という一般の説は正しくはない。飼育中のノガンの観察では雌雄ともに ku-あるいは kou-という声が発する。野外での観察で幼鳥の hou-, hao という声をよく聞く。しかし、通常ノガンが鳴くことは珍しい。

ノガンは雑食性の鳥で、春には植物の芽や柔らかい葉を食べ、雌は昆虫などを食べる。夏には植物の他昆虫、カエル、魚類も食べ、秋にはもっぱらイナゴ類を食べる。冬は東北地域では植物の種子、収穫後の耕地で大豆、麦などの落ち穂を拾いにとって食べている。長江流域の越冬地では植物の芽や葉を主な食べ物としている。今日人類がその生存のために、多くの草地を開墾、耕地化したので、ノガンは時々そこの麦の若芽を食うこととなった。

昔、ノガンはアジア大陸の広大な平原や丘陵地帯に広く分布していた。東方亜種の繁殖南限は河北省石家荘付近に達し、東北地方では遼寧省南部に及んでいた。しかし、ノガンは肉が多く、羽毛は装飾品の材料となったため、過去長い間、狩猟鳥として大量捕殺の犠牲を被った。こうし

た長期の捕殺圧に加えて、人口の増加による草地の開墾、過度の放牧による牧草地の衰退、牛や羊による営巢地の攪乱などの原因によるノガンの生息環境破壊は深刻な局面に至り、年を追って個体数が激減し、現在の生息地域はパッチ状に孤立状態になった。とりわけ東方亜種は渡り鳥であるため、渡りの途中たびたび人による災難に見舞われ、南に渡ってきた数に対して、二年目に新たに繁殖地へ帰ることができる数は大いに減ってしまうことになる。それはつまり、渡りの途中あるいは越冬地で相当数のノガンが人々の食卓の上に送られているということである。90年代初期の概略の統計では、ノガン東方亜種の個体数はわずかに400前後であった。ノガン東方亜種の繁殖地は中国、モンゴル、ロシアの三国であるが、越冬はわずかに中国のみで行なわれており、したがって、我が国におけるノガン東方亜種の保護は、地理的にもとりわけ重要な意義がある。今日、ノガンはIUCNのレッドデータブックに登録され、さらに、絶滅に瀕する動植物の国際貿易禁止条約付録Ⅱに収録された中国国家第一級の保護鳥である。

人類が我々のこの土地にまだ入っていなかった頃、この土地はすでにノガンやその他の野生動物達の極楽、楽園であった。しかし、人類が到来することによって彼らの土地は、人々に占有されてしまい、ノガンやその他の野生動物は一步一步と後退して、わずかに残された極く小さな未開発の“孤島”に追いやられ、しかも始終人類の攪乱を受けることとなってしまった。もし我々人類が十分に彼らに配慮しなければ、ノガンは行き場を失ってしまう！

人類も野生動物もすべて地球上の仲間、地球はノガンの屋敷や庭と同様、彼らにだって、この地球上に我々人類同様に存在する権利がある。ノガンは人類に対して何らの害も与えないどころか、大量のイナゴやバッタを食べるので、人に対して有利に働いているのではないか。ノガンは喋ることもできず、叫ぶこともしない、ただ、黙々と人類が穴居時代の昔から今日の高度文明に至るまでの一挙一動を注視しているだけである。人類の文明社会は大きく発達したが、ノガンは一步一步と絶滅への道を追われている。彼らには逃げる以外に何一つ抵抗の手段を持ち合わせていないのだ。彼らが生きのびるには我々人類の温かい愛と保護を必要としている！

今日まで、内蒙古自治区扎賚特旗政府の努力の下に、東北林業大学と国際鳥類連盟アジア委員会などの関係機関が実地を考察し、自治区環境保護局と興安盟の専門家の協力により、1997年内蒙古自治区政府の批准をへて、我が国に始めてノガンの繁殖を目的とした図牧吉省級自然保護区を設立することとなった。ノガンには大きな避難場所ができたのである。しかし、当然そこにも人口圧力や管理運営、周辺住民との協調といった問題が山積している。そして、社会全体のこのことに対する関心と応援を求めている。ノガンの保護事業は“荷重く、道遠し”である。